

第6学年

社会科学学習指導案集



《研究の視点とのかかわりについて》

本授業は、視点2「子ども自らの見方・考え方を確かなものにし、社会参画の意識を生む学習過程の工夫」に基づくものである。明治時代後期から大正時代は、日清・日露戦争での勝利や条約改正、諸外国との関係をとらえさせていくことが大切である。そこで、本単元では、各分野で活躍した人物の功績やその後の社会変化について中心資料を基に調べ、考えさせていくことを重視する。そして、自分なりの価値判断でそれらの人物の働きをとらえ直す学習を通して社会参画の意識を育み、研究テーマに迫りたいと考える。

1 小单元名 世界に歩み出した日本

2 小单元の目標

日清・日露の戦争や条約改正，科学の発展などについて調べ，我が国の国力が充実し，国際的な地位が向上していったことを分かるようにする。

3 小单元の評価基準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日清・日露の戦争や条約改正，産業や科学の発展などに関心を持ち，意欲的に調べようとしている。 国際的な地位向上や民主主義について自分なりの見方をし，社会参画への思いを持とうとしている。	我が国の国力が充実し，国際的地位が向上していった様子を，人物の働きや産業の発展，外国との関係を通して考えたことを適切に表現している。	年表や写真，文章資料，地図，グラフなどの資料を効果的に活用して，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展の要素を調べるとともに，調べたことをノートや年表に工夫してまとめている。	日清・日露の戦争における勝利や条約改正，科学の発展などを通して，我が国の国力が充実し，国際的地位が向上していったことが分かる。

4 小单元について

○ 教材観

本单元は学習指導要領(1)クにあたり，我が国の国力の充実や国際的地位の向上にかかわる人物の働きを調べ，それらによって人々の生活や社会が変化しをしたことが分かることをねらいとする。本单元の明治後期から大正時代は，日本の国際的な立場や日本国民の民主主義への意識が劇的に変化した時代である。様々な人物の貢献によって，当時，一途上国にしかすぎなかった日本が，国際社会の中で認められる存在になっていく。本单元の時代に，困難を乗り越えて日本の立場や社会を変えていった人物の働きを考えさせることで，社会形成に参画する思いを育むことができる教材である。

○ 児童観

戦国武将について詳しく知っている児童や自主学習で予習に積極的に取り組む児童がいるなど歴史に関する興味・関心が高い児童が多い。特に，調べることへの意欲が高く，教科書や資料集，図書館の本などを用いて進んで課題解決をしようとする姿が見られている。しかし，自分の考えを進んで伝えようとする児童が一部に限られている。自分の考えを伝えたいくなるような教材の工夫やペアやグループでの意見交流を取れ入れて発言を促していきたい。また，教師が児童の考えを把握して様々な価値観に児童の発言から気付かせていきたい。それによって，多様な見方に触れ，社会的事象を多角的に捉えられるようにしていきたい。

○ 指導観

本单元では，この時代の人物の働きを通して，日本の国際的な立場や社会がどのように変わっていたのか捉えられるようにしていきたい。そのためには，当時の社会状況を理解し，その状況に置かれた人物がどのような願いをもって行動したのか共感的に理解をすることが大切だと考える。当時の社会状況を資料から読み取ったり，補助資料で示したりすることで，まずその人物の置かれた状況を把握させていきたい。その上で，日本の社会を変えるために具体的にどのような努力や苦労をしたのか，人物の働きについて考えさせていきたい。そして，それらの人物の社会形成への働きを，自分なりの価値判断で捉え直し表現する学習活動を取り入れることで，社会参画への意識を育んでいくことができるようにしたい。そのために予習を生かした授業展開を工夫し，授業の中で表現活動を取り入れる時間を確保していきたい。

5 小単元の構造について（知識の構造図）

【学習指導要領】

内容(1)ク大日本帝国憲法の発布，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展などについて調べ，我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。



中心
概念

日清・日露戦争，条約改正や産業・科学の発展により，我が国の国力が充実し，国際的地位が向上した。また，産業の発展は，人々の生活や社会に変化をもたらした。□

具体的
な知識

政府の殖産興業政策によって大きな工場がつくられ，工業がさかんになった。欧米諸国に追いつこうと努めた日本は，二つの戦争をへて，世界の中の立場を変えていった。□

日本の産業の発展には，欧米諸国と結んだ不平等条約の改正が必要であった。陸奥宗光は，領事裁判権の撤廃に成功したが，関税自主権の回復は先送りされた。□

日本と清（中国）は朝鮮をめぐる対立し，日清戦争となった。日本は勝利して賠償金を得，台湾などを植民地とした。日本とロシアは満州と朝鮮の支配をめぐる対立し，日露戦争となった。勝利した日本は，樺太南部と満州の鉄道を獲得し韓国の支配をロシアに認めさせた。□

朝鮮を植民地とした日本は支配を強めたが，朝鮮の人々は独立運動を続けた。小村寿太郎が不平等条約の改正に成功して関税自主権を回復させ，欧米諸国と対等な関係を築いた。医学や物理学などで世界に認められる学者が現れ，日本の国際的地位の向上に貢献した。□

産業が発展し，都市化が進む一方で，様々な社会問題が起きた。また，人々の民主主義への意識が高まり，普通選挙や女性の地位向上，差別撤廃を目指す運動が起こった。□（本時）

国際的な地位向上や民主主義について自分なりの見方をし，社会参画への思いを持つことができる。□（本時）□

用語
など

・紡績工業
・殖産産業
・欧米諸国

・関税自主権
・領事裁判権
・条約改正

・日清戦争
・日露戦争
・植民地と賠償金

・韓国併合と独立運動
・国際的地位の向上
・新しい文学と科学の発展

・足尾銅山
・普通選挙
・民主主義

6 小単元の指導計画

段階	時間	めあて	※留意点・評価	資料
つかむ	1	この時代にどのようなことがおこり、日本が発展していったのか話し合い学習問題を作ろう。 ○風刺画「列強クラブの仲間入り」「列国の影に隠れて吠える支那」を見比べ、日本の国際的な立場が変化したことに気づき、どのようにして国際的な地位が向上していったのか考える。 ・グラフから明治時代の工業の発展を調べる。 ・全国に大きな工場ができた。 ・紡績工場が多かったが、少しずつ重工業も増えてきた。	※風刺画から日本の立場の変化を共通理解するようにする。 ※学びコーナーのグラフから歴史的事象を読み取らせる。グラフだけでなく、年表とも対比させ、工業が発展する理由を考えさせる。 関・意・態 産業の発展や欧米諸国に追いつこうとする日本の様子について意欲的に調べようとしている。(発表・観察)	風刺画 「列強クラブの仲間入り」 「列国の影に隠れて吠える支那」
		我が国の国力はどのように充実し、どのように国際的地位が向上したのだろうか。		
調べる	2	陸奥宗光と条約改正について調べよう。 ○ノルマントン号事件などをもとに、不平等条約に不満を持つ国民や、条約改正のために努力した小村寿太郎について学ぶ。 ・関税自主権が認められていなかった。 ・領事裁判権が認められていなかった。 ・小村寿太郎の努力で一部改正されたが、改正には外国との関係性が重要である。	※ノルマントン号事件など、不平等条約によって生じた国民の怒りをとらえ、日清戦争から条約締結への因果関係をとらえられるようにする。 〈視点1〉 事件の詳細や具体的な事例を提示することで、国民の怒りを共感的に理解し、当時の社会について考えられるようにする。	教科書の風刺画 資料集
調べる	3	日清・日露戦争とその影響について調べよう。 ○日清戦争の講和条約の締結で大きな働きをした陸奥宗光の働きを調べる。 ・戦争に勝利し、伊藤博文と陸奥宗光が下関条約を結んで賠償金や台湾の領土を得た。 ・治外法権をなくすことに成功した。 ○日露戦争において活躍した東郷平八郎や講和条約の締結で大きな働きをした小村寿太郎の働きを調べる。 ・戦争に勝利し、小村寿太郎がポーツマス条約を結んで樺太と満州鉄道の権利を獲得した。 ・関税自主権の撤廃に成功した。 ・朝鮮半島及び中国の人々に損害を与えた。	※『朝鮮をめぐる、日本、ロシア、中国』の風刺画から、日本と清が朝鮮を支配しよう対立し、ロシアが朝鮮を横取りしようとしていたことを読み取らせる。 ※日清戦争から日露戦争までの流れをしっかりとらえられるように年表等で確認する。 知・理 朝鮮を植民地にし、朝鮮の人々を傷つけたこと、陸奥宗光や小村寿太郎の条約改正への努力によって欧米諸国と対等な関係を築いたことを理解している。 (ノート・発言)	教科書の風刺画 年表

調べる	4	科学の発展と国際社会で活躍した人について調べよう。 ○黄熱病について世界的に注目された研究を行った野口英世の業績を調べる。 ・医療分野などでの日本人の学者が国際的に認められるようになった。 ・北里柴三郎や志賀潔なども活躍した。	※野口英世について少年時代の苦勞や、勉学に励む様子などを取り上げ、子どもが興味を持って学習できるように支援する。 ※特に医療分野での国際的活躍が認められるようになったことに注目させる。	
調べる	5 本時	人々の社会問題への意識がどのように変わっていったのか考えよう。 ○社会問題を解決しようとする運動において、共通していることは考える。 ・社会問題に対して、民衆運動などが起こった。 ・民主主義の意識が高まった。 ○タイムスリップをして当時の人になり、どの問題を解決したいのか考える。 ・普通選挙は、国を作る上で大切だと思う。 ・女性の権利の問題で男女で差があるのはおかしいと思う。	※普通選挙の実施を求める運動や女性の地位向上への訴えなど社会問題を解決しようとする中で、民主主義への意識が高まったことに気付かせる。 思・判・表 人々が社会問題をどのように解決をしていったのか共通することを考えることができる。(ワークシート) 関・意・態 民主主義について自分なりの見方をし、社会参画への思いを持つことができる。(ノート) 〈視点2〉 社会的事象について多角的に考えるとともに、価値判断の場面も設けることで、子どもの考えを確かなものにする。	ワークシート ノート
まとめる・いかす	6	日本の国際的地位が向上や国内の民主主義の広がりについて学習したことを人物カードに整理してまとめよう。 ○陸奥宗光、東郷平八郎、与謝野晶子、小村寿太郎、野口英世、田中正造の働きを人物カードにまとめる。 ○国際的な地位の向上、国内の民主主義の広がりについて、自分なりの価値判断で貢献したと思う人物を考え、なぜそう思うのか、理由を伝え合う。	技能 学習したことを整理し、人物カードにまとめている。 (人物カード) 〈視点3〉 学習したことを自分なりに価値づけ、その上で自分の認識と友達の認識との違いや共通点を考えることで、社会的事象への認識を深める。	

7 本時の指導（5／6）

（1）本時のポイント

本時では〈視点2〉を考慮して、民主主義への意識の高まりについて複数の事象について調べ、多角的に考えた後に価値判断の場面も設けることで、民主主義へのとらえを確かなものにできるような授業を展開する。

（2）ねらい

- 当時の人々が社会問題をどのように解決をしていたのか共通することを考えることができる。
- 民主主義について自分なりの見方をし、社会参画への思いを持つことができる。

時間	学習活動	学習形態	○発問 ●指示 ・児童の反応	※留意点 資料 評価
15分	○当時の社会問題と人々がどのようにそれを解決しようとしたのか、予習で調べてきたことを共有する。	全体	○この時代の社会問題と人々の解決方法を予習でプリントにまとめてもらいました。今日のねらいを確認します。 人々の社会問題への意識がどのように変わっていったのか考えよう。 ○米騒動の絵を見てください。叫んでいる人がいます。何と叫んでいるのですか。 ・米を分けてくれ！ ・お前たちだけずるいぞ。 ○それぞれの社会問題について確認をしていきます。 □困っていたのは誰か。 □どんなことに困っていたのか。 □どのように解決しようとしたのか。 を教えてください。	※事前に授業の流れと考えることを児童に説明をしており、見通しをもって予習できるようにしておく。 ※板書とともに教科書に記載されている写真を拡大して掲示していく。 ※米騒動の概要について説明をし、「ある問題について困っている人がいる」という「社会問題」という言葉の捉えを共通認識する。
15分	○様々な社会問題とその解決における共通点を考える。	ペア ↓ 全体	○社会問題を解決しようとする運動において、共通していることは何でしょうか。 ・多くの人々が集まっている。 ・誰かリードしてくれる人がいる。 ・組織を作っている。 ・困っている人が権利を主張した。 今年の国会前でのデモの写真を見せ、先の共通項が現在にも当てはまることを確認し、「人々が自分から政治に参加し、物事を決めていく」という民主主義の定義を共通理解する。	※共通点を見つけるのが難しい場合には教科書の写真を連続してテレビに映し、「この写真に共通することは何か」考えさせる。 思・判・表 社会問題と民衆運動について自分なりに社会的事象をとらえて価値判断をしている。（ワークシート）
15分	○各運動について自分なりの価値づけをし、民主主義へのとらえを深める。	個人 ↓ 全体	○タイムスリップをして当時の人になり、問題を解決する運動に一つだけ参加できるとしたら、どの問題を解決したいですか。 ・普通選挙 →国を作る上で大切だと思うから。 ・足尾銅山 →困っている人が助かる世の中にしたい。 ・女性の権利 →男女で差があるのはおかしいと思う。	関・意・態 民主主義について自分なりの見方をし、社会参画への思いを持つことができる。（ノート）